

SEKISUI

'14. 01版



ASHERA
WOOD

「デッキ」施工・取扱説明書

積水化学工業株式会社

1. 安全上のご注意

- 本製品はデッキ用途として設計・製品化されたものであり、本書はその施工・取扱いのガイドラインを提供するものです。よって他の用途に使用して不具合を起こした場合や、当社ガイドラインによる標準施工法以外の施工の場合は当社は一切の責任を負いません。
- 本説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号	記号の意味
 警告	取扱いを誤った場合、死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容です。
 注意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容です。

<施工上のご注意>

注意

- ・本製品を自動車、自転車、オートバイ、重量のある台車などの通る場所には使用しないでください。
- ・本製品の保管時は、変形等の恐れがありますので立てかけをせず、平坦な場所に平置きしてください。また、直射日光や暖房機の近くなど高温になる環境を避け、雨、水の当たらない場所に保管してください。
- ・本製品にはそれぞれに寸法公差がありますので、施工の前に現場での割付確認を必ず行ってください。
- ・本製品は構造材として使用することはできません。
- ・本製品は防火材料としての認定は受けておりません。
- ・本製品を施工するときは、必ず根太等を設置して、その上に材を取り付けてください。コンクリート面や土の上に材を直接取り付けることはおやめください。
- ・本製品を釘や接着で固定することはおやめください。
- ・本製品をビスにて固定する際は必ず下穴をあけてから行ってください。
- ・本製品を固定する根太の間隔は500mm以内にしてください。
- ・本製品の張り出しは100mm以内にしてください。
- ・本製品は熱や湿気により伸縮が発生しますので、施工後の伸縮による不具合防止のため、製品同士を突き合わせて施工する場合は5mm（幅の目地、縦継ぎとも）、他の構造物と突き合わせて施工する場合は10mm以上の隙間（目地）をあけてください。
- ・本製品の上に施工工具等を落とさないでください。破損する恐れがあります。

<使用上のご注意>

警告

- ・本製品の上で火を燃やしたり加熱したりすると、燃えたり、変形したりしますので絶対におやめください。

注意

- ・夏の高温時は製品表面が高温になり、裸足で歩くとヤケドをする恐れがありますので、裸足で歩かないでください。
- ・雨や散水などで濡れた場合は、製品表面が滑りやすくなりますので、歩行には十分ご注意ください。また、履物によっては滑りやすくなる場合がありますので、歩行には十分ご注意ください。
- ・本製品は樹脂を含んでおり、使用環境によっては静電気を帯電する場合があります。
- ・本製品の上に重量物を置く場合は、荷重が大きな面積に分散するよう、大きな敷板などの上に置くようにしてください。
- ・強い衝撃を与えるように、本製品の上へ飛び乗ったり、飛び降りたりしないでください。ケガをしたり、製品が変形、破損したりする恐れがあります。
- ・本製品の上に重量物を落とさないようにしてください。落とした衝撃で割れ・凹みが発生する恐れがあります。
- ・本製品の上でバーベキューコンロなど高温になるものを置かないでください。変形・変色・破損の恐れがあります。
- ・本製品への塗装はおやめください。
- ・本製品をなめたり、かじったりしないでください。
- ・製品表面を傘など、先端のとがったもので突かないでください。破損・変形の恐れがあります。
- ・製品表面に灯油やガソリン、有機溶剤などが付着した場合はすぐにふき取ってください。変色・変形の恐れがあります。
- ・本製品の上に空き缶や鉄製の物などを直接置かないでください。放置するとシミが生じることがあります。
- ・暴風雨や地震などの天災後には、製品に破損や安全に支障をきたす異常がないか、点検を行ってください。

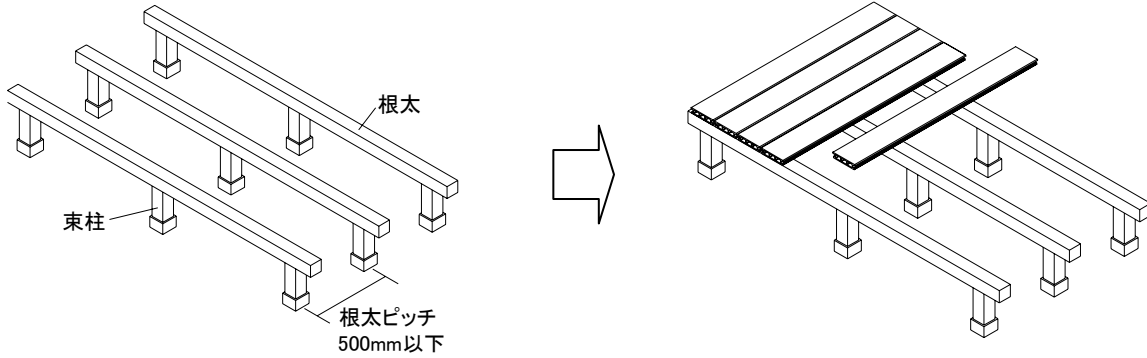
<解体上のご注意>

注意

- ・解体作業前には、作業内容、及び注意事項の確認をしてください。
- ・必要に応じて、関係者以外が作業現場に立ち入ることができないように立入禁止措置を取ってください。
- ・作業時、作業後はゴミを放置せず、きれいに清掃してください。
- ・解体工事の際に発生する廃棄物を正規な処理を行わず埋めたり、焼却しないでください。廃棄物処理及び清掃に関する法律や地方の法規・条令に従ってください。
- ・廃棄物は適正に分別して廃棄してください。
- ・リサイクルに関して
アシェラウツドのリサイクルに関しては弊社営業所までお問合せください。

2. 基本施工

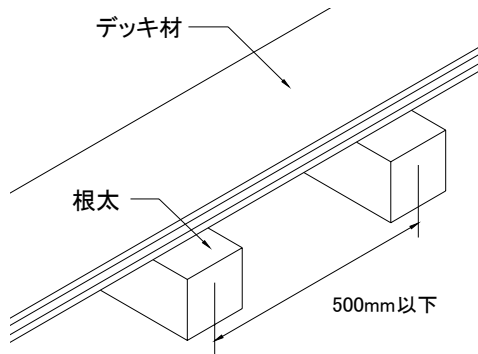
■デッキの設置位置に束柱、根太をくみ上げ、デッキ材を端部から順次張り上げていきます。



※デッキ構造部(束柱、根太、大引き、フェンス材等)はお客様にてご準備ください。

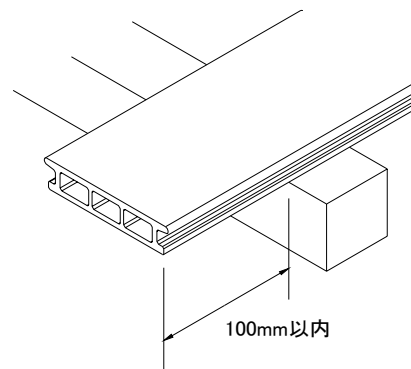
■ 根太材の間隔

デッキ材を敷設する場合の根太間隔は下図のように根太の芯-芯の距離とし、500mm以下としてください。



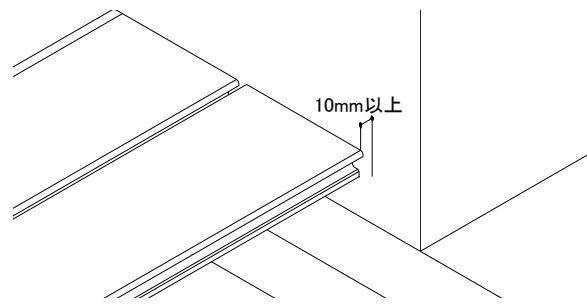
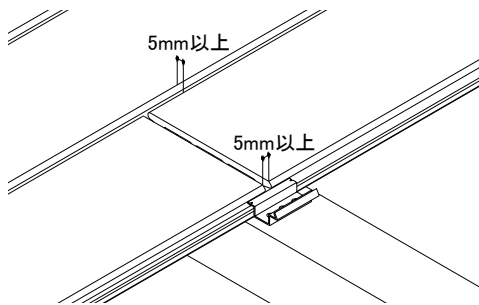
■ デッキ材の根太からの張り出し

デッキ材を根太の端部から張り出して敷設する場合は下図の通り根太から100mm以内としてください。



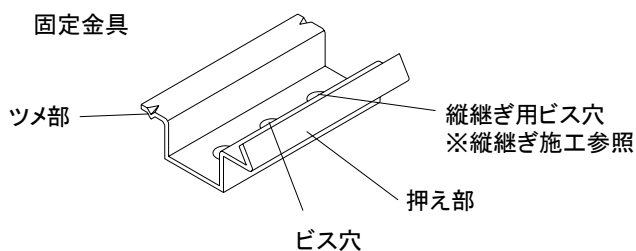
■ デッキ材同士の目地寸法は幅方向、縦方向ともに5mm以上確保してください。

壁際の端部など他の構造物と突き合わせて施工する場合は、必ず10mm以上隙間を確保してください。

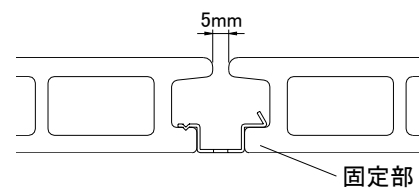


※デッキ材の裏面に矢印(→)を表示しています。矢印の向きを揃えて敷き詰めると、施工後の色の見え方の差を小さくすることができます。

■ デッキの固定では専用金具を使用することにより、ビス頭が露出しない施工が可能になります。



■ 固定金具の押え部にデッキ材の固定部を差し込むことで目地5mmを確保することができます。



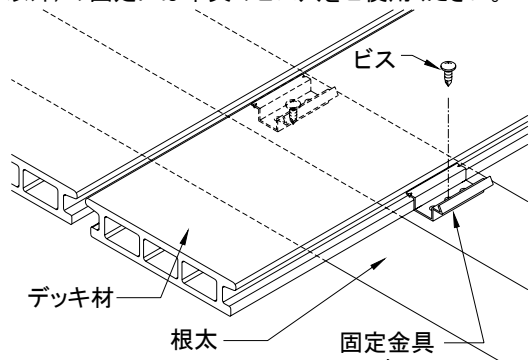
3. 固定金具によるデッキ材の施工

■ デッキ材(145X30K)を固定金具を用いて根太等に固定する場合は下図の要領で行ってください。

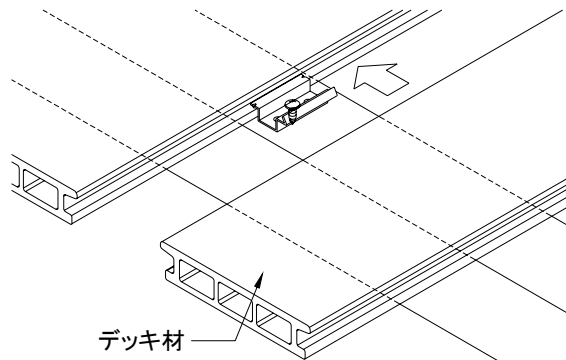
※固定金具の固定やデッキ材の固定に使うビスは、ご使用の根太に合ったものをお客様にてご準備ください。

◆デッキ材同士の固定

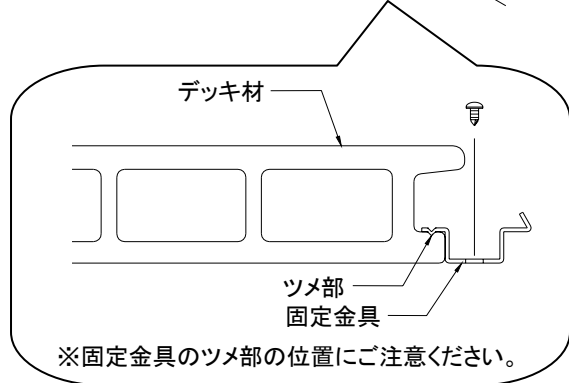
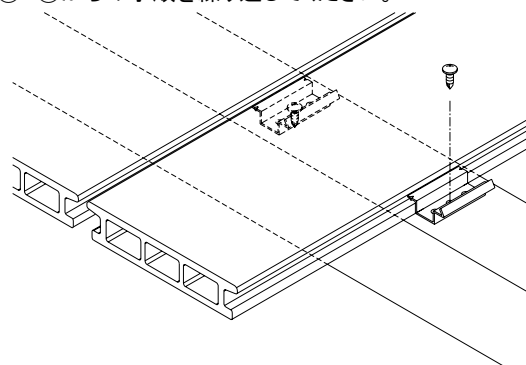
- ① デッキ材の固定部に固定金具のツメ部側を乗せ、ビスで固定金具を取り付けてください。
※固定金具はビス穴を3つ備えています。通常(縦継ぎ以外)の固定には中央のビス穴をご使用ください。



- ② 2枚目以降のデッキ材を差し込んでください。
※入りにくい場合はプラスチックハンマーで軽くたたいて入れてください。

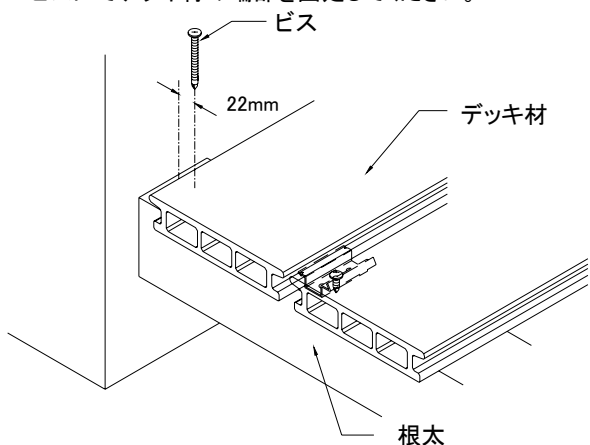


- ③ ①からの手順を繰り返してください。

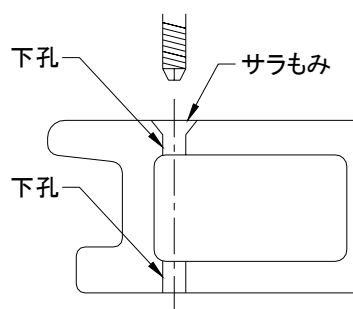


◆端部の固定

ビスにてデッキ材の端部を固定してください。



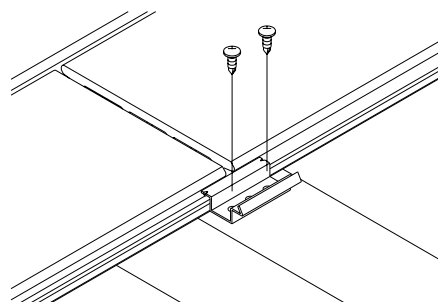
※ビスで固定する際は必ずあらかじめドリル等で下孔を開け、サラもみを行ってください。



◆縦継ぎ施工

製品を長さ方向に連結(縦継ぎ)する場合は右図のように両端2か所にビス固定を行ってください。

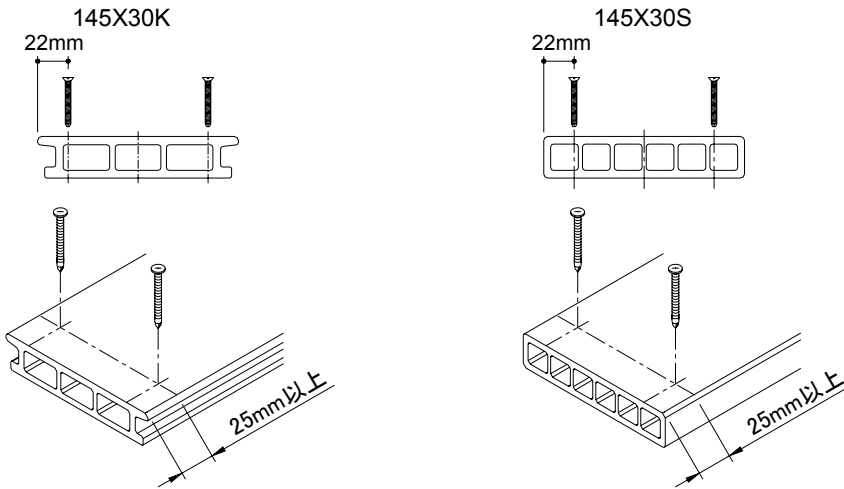
※縦継ぎ施工を行なうには充分の幅のある根太材を使用し縦継ぎ部が必ず根太上になるようにしてください。



4. ビスによるデッキ材の施工

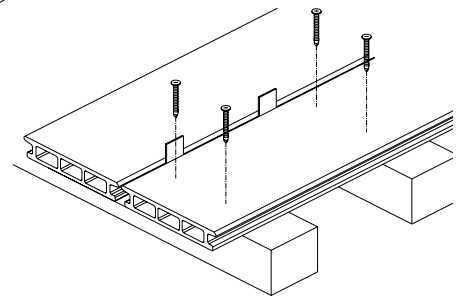
■ デッキ材をビスで固定する場合は下図に示す位置で固定を行ってください。

※ビスはご使用の根太に合ったものを、お客様にてご準備ください。



※ 電動ドライバーを用いてビス固定する際は、トルク(締め付け力)をできるだけ弱くして行ってください。
締め付けすぎるとデッキ材が割れるおそれがあります。

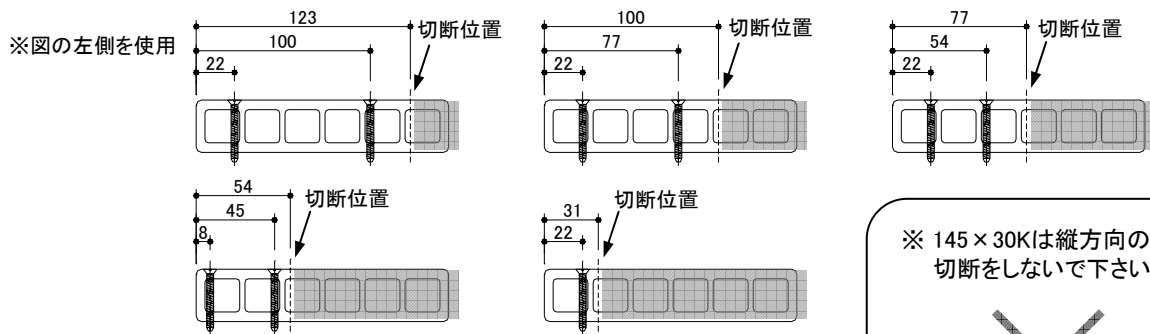
■ ビス固定時の目地の確保は厚み5mmのスペーサーをご準備頂くとより美しい仕上がりになります。



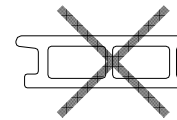
5. 幅方向の納まり調整

■ 幅方向の納まりを調整する際、縦方向の切断が必要な場合は145×30Sを使用して下さい。

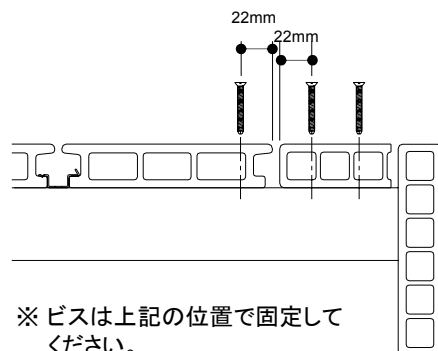
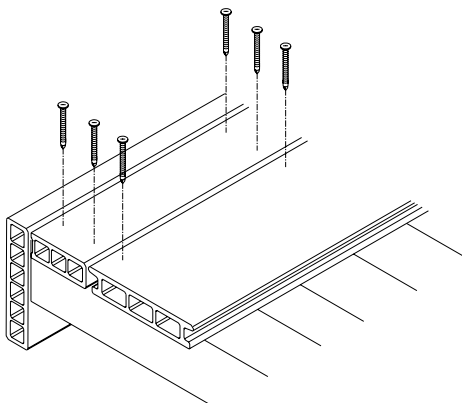
■ 切断の際は、下図に示すようにリブ際のいずれかの位置で切断を行い、納まり調整には図の左側部分を使用して下さい。



※ 145×30Kは縦方向の切断をしないで下さい。



※ 145×30Kでの施工において幅方向の納まり調整する場合は、下図の要領でビス固定してください。

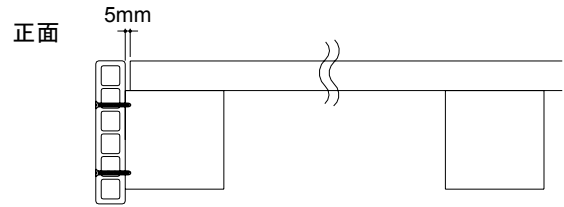
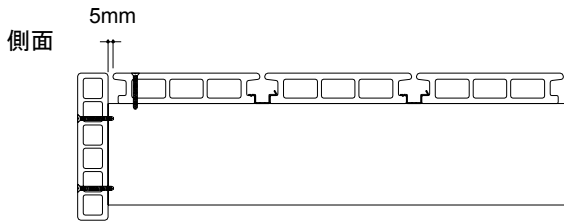


※ ビスは上記の位置で固定してください。

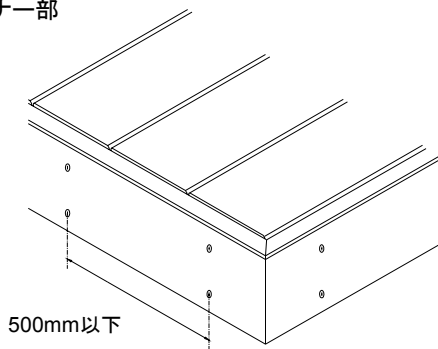
6. 幕板の取り付け方

- 145×30Sを幕板として使用する場合は、デッキ材と固定せず根太へ直接固定してください。
幕板を固定する際は、リップ近傍でビス固定してください。
デッキ材と幕板の目地隙間を必ず5mm確保してください。

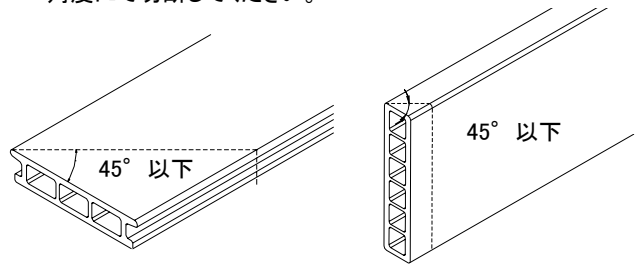
根太に合わせて必要なLアンクル、固定用プレートなどをお客様でご準備ください。
※幕板の固定間隔は根太間隔に併せて500mm以下で固定してください。



コーナー部

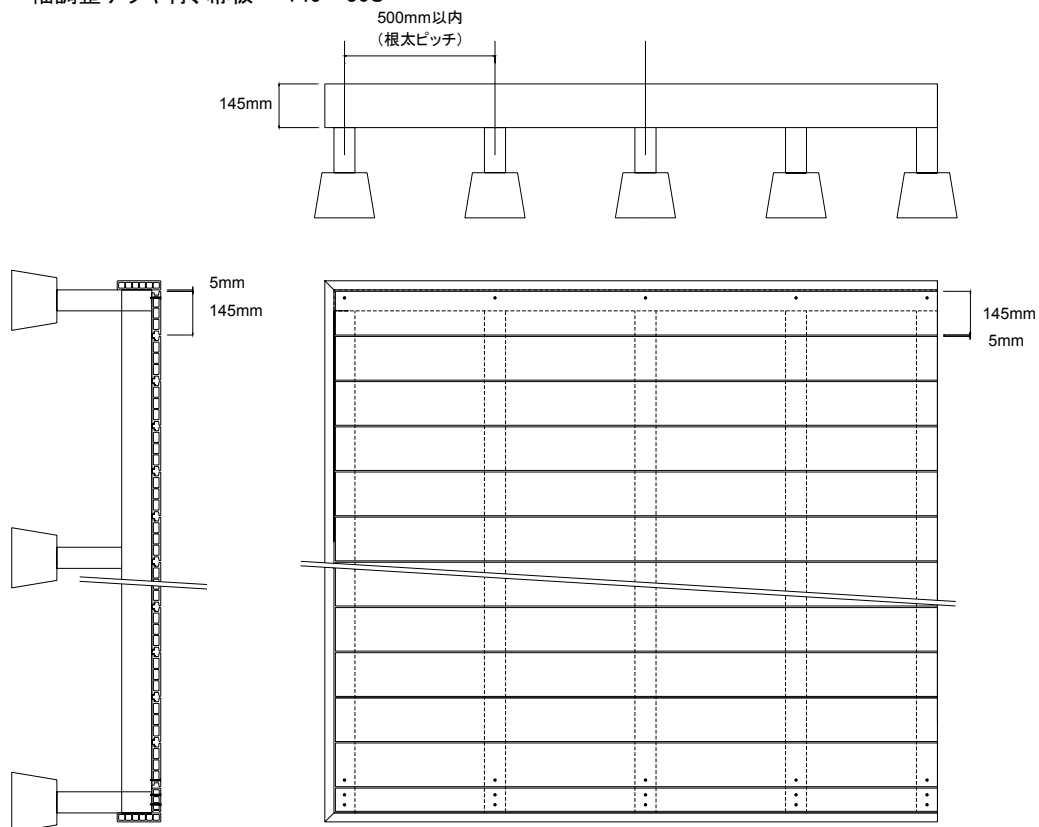


※斜め切りについて
デッキ材を斜め切りする必要がある際は、必ず45°以下の角度にて切断してください。



7. 施工例

施工例 デッキ材 145×30K
幅調整デッキ材、幕板 145×30S

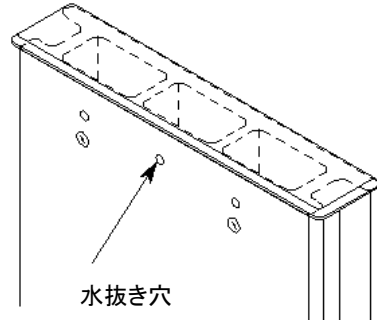
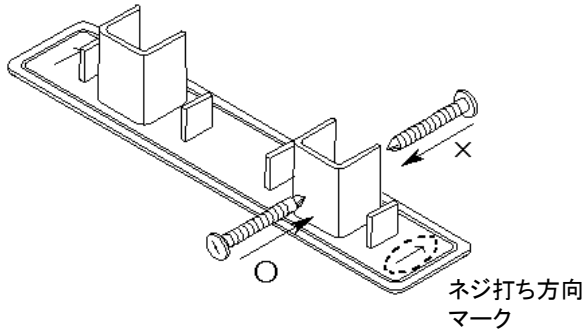


8. 端部キャップの施工(145×30K)

【注意事項】

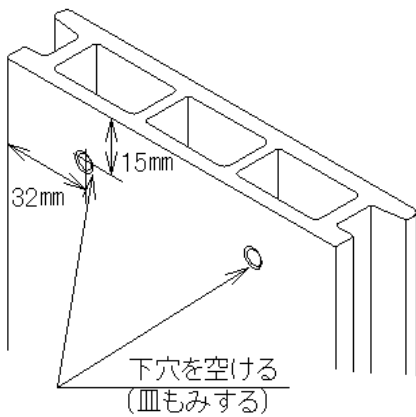
1. 端部キャップの短手方向は非対称であり、ネジを打つ方向が決まっております

3. 以下の様に、本体下部に水抜き穴を設けてください
4. 水抜き穴は全中空部ごとに空けてください(3箇所)

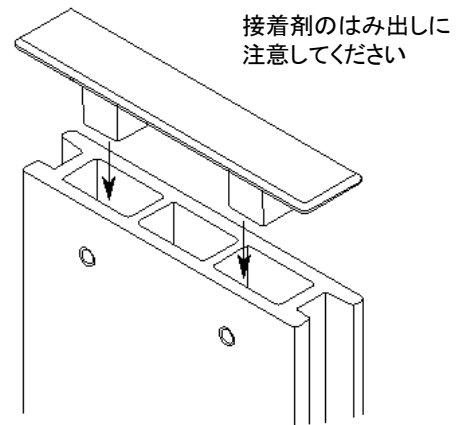


2. 面材への固定は接着剤、ネジを併用し、片方での固定はお避けください

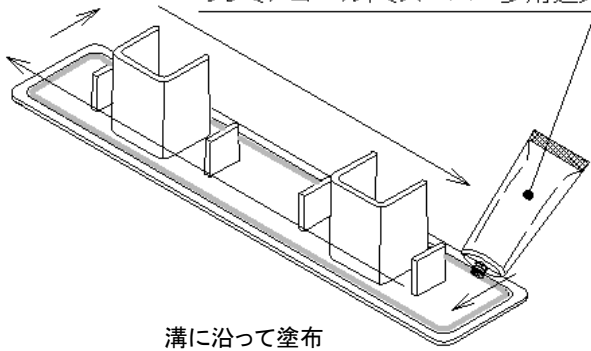
①本体の穴空け



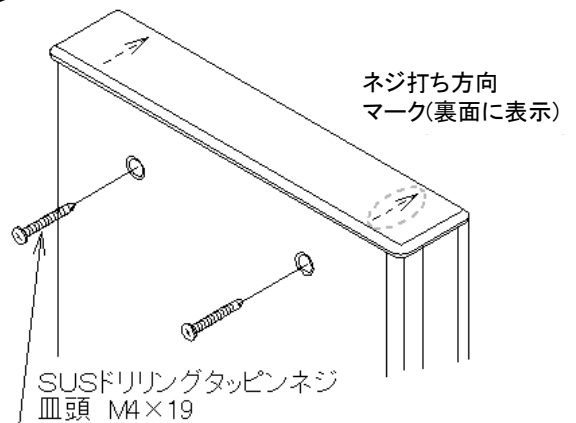
③本体に端部キャップをかぶせる



・コニシ ボンド GPクリアー 又は
・スコッチ 超強力接着剤
プレミアゴールド(スーパー多用途)



②端部キャップに接着剤を塗布



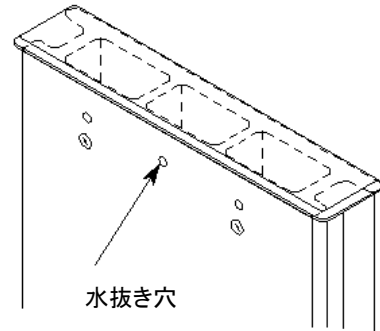
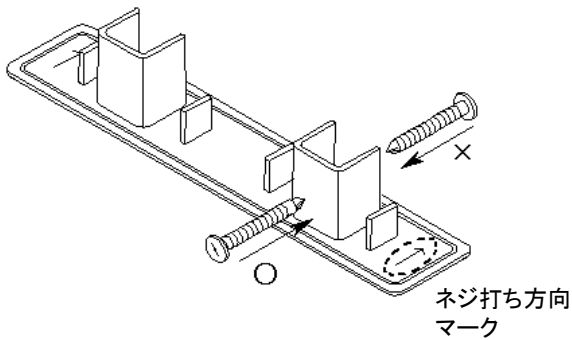
④端部キャップをネジ固定する

8. 端部キャップの施工(145×30S)

【注意事項】

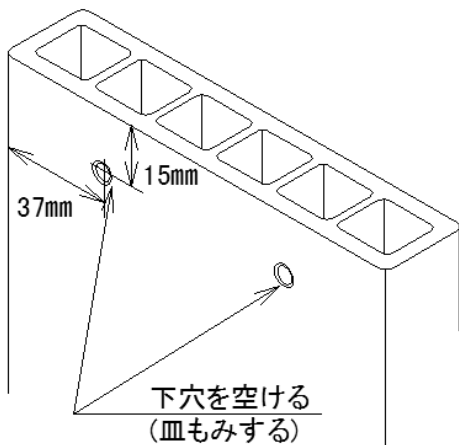
1. 端部キャップの短手方向は非対称であり、ネジを打つ方向が決まっております

3. 以下の様に、本体下部に水抜き穴を設けてください
4. 水抜き穴は全中空部ごとに空けてください(3箇所)

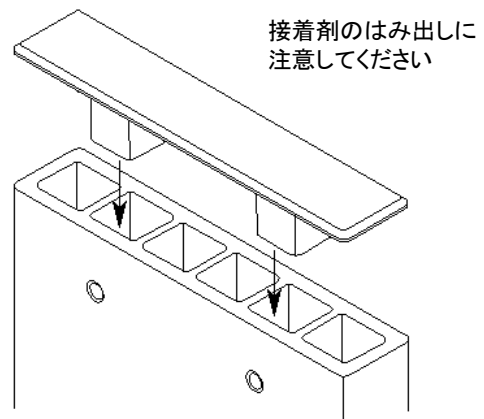


2. 面材への固定は接着剤、ネジを併用し、片方での固定はお避けください

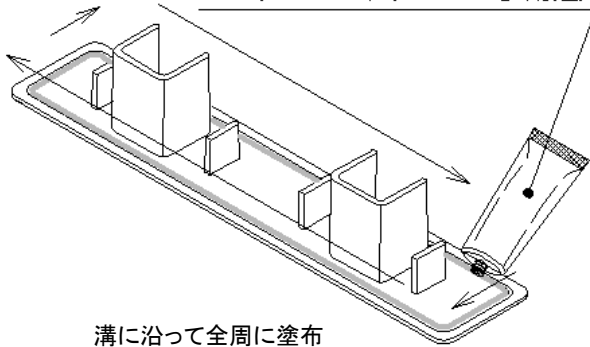
①本体の穴空け



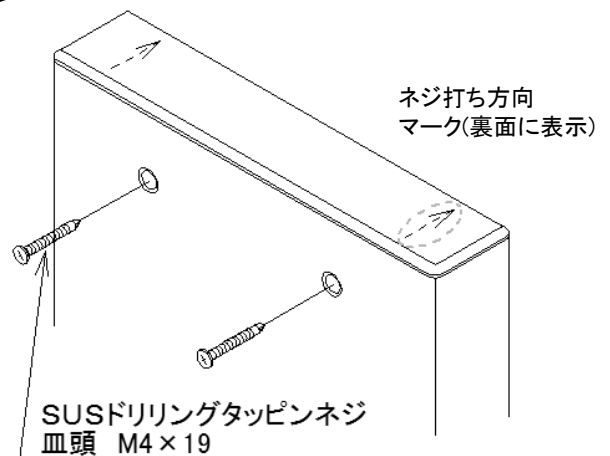
③本体に端部キャップをかぶせる



・コニシ ボンド GPクリアー 又は
・スコッチ 超強力接着剤
プレミアゴールド[スーパー多用途]



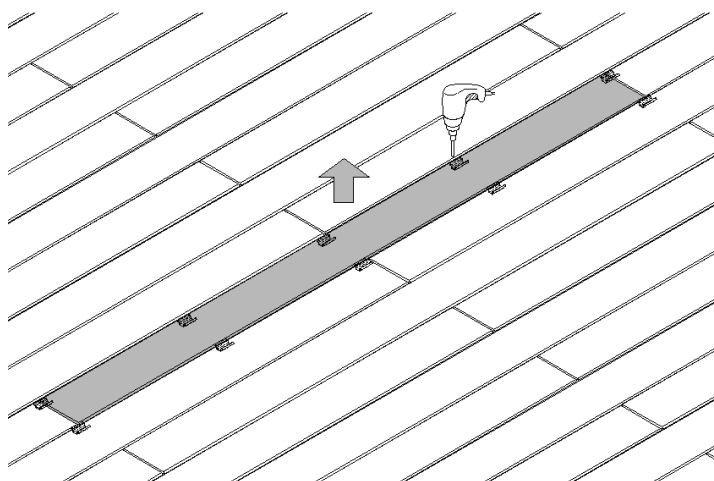
②端部キャップに接着剤を塗布



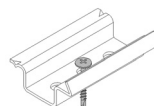
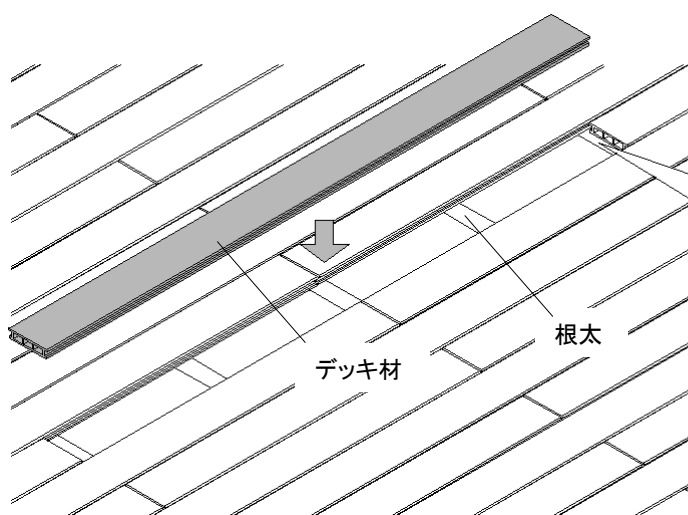
④端部キャップをネジ固定する

2. 交換方法

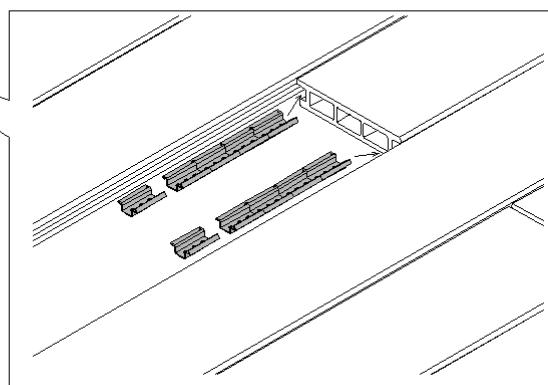
■交換するデッキを固定している金具を径4mmの細ビットを用いて外します。



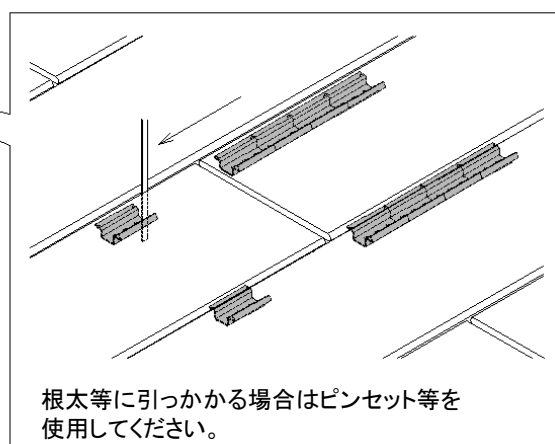
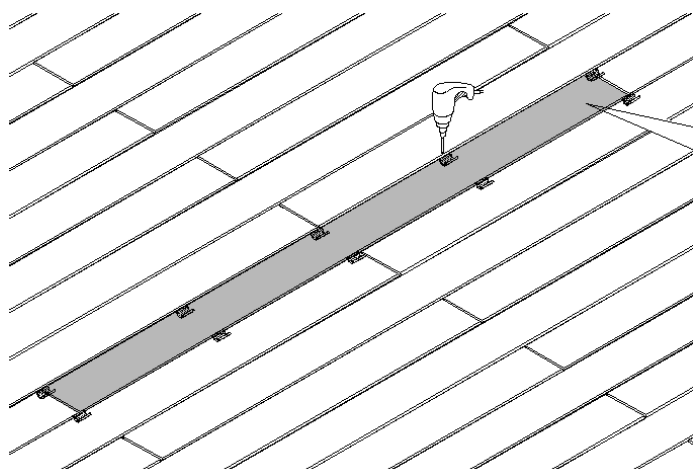
■外したとなりのデッキ固定部に必要数量の固定金具を事前に入れ込み、新しいデッキを配置します。



固定金具にビスを事前に通しておきます。



■となりのデッキに入れ込んだ固定金具を細い棒を用い、固定場所までスライドさせ、金具を径4mmの細ビットを用いて根太に固定します。



「アシェラウッド」の特性とお手入れ

※本ページは必ずお客様にお渡しください。

■「アシェラウッド」の特性

- 本製品はフライアッシュ(火力発電所で発生する石炭灰)と容器包装リサイクル樹脂を主原料とした、環境にやさしい製品です。
- 本製品の表面は天然の木粉を使用していますので、色に若干のバラツキを生じることがあります。また、自然の風合いを出すために表面をサンディング加工していますので、芝目のように本製品の長手方向に順目、逆目があり、施工後、光の当たり方や見る方向、角度によって色が部分的に違って見えることがあります。ご了承ください。
- 天然木材に見られるように、雨や紫外線によって本製品の原料である木粉は若干白っぽく変化します。よって本製品の色合いも使用環境によって差はありますが、木粉の影響により全体的に白っぽく変化します。ご了承ください。
- 本製品は使用環境によって、雨・雪・散水などにより、製品表面に部分的にシミが残ることがあります。シミの除去方法については次項のお手入れ方法をお読みください。

■「アシェラウッド」のお手入れ

(1) 通常のお手入れ

- 製品表面についたゴミ・ホコリは、ほうきなどでこまめに取り除いてください。汚れている部分は、雑巾やスポンジなど柔らかいものを使って水洗いしてから、から拭きするか、それでも落ちない場合は薄めた中性洗剤を使って汚れを落とし、中性洗剤が製品表面に残らないよう、よく水で洗い流して最後にしっかりとから拭きしてください。
- 雑巾・スポンジ・ブラシなどを用いてお手入れする場合は、本製品の長手方向(筋目の方向)に沿って行ってください。

※ご注意ください

- ・ブラシなどを用いて汚れを取る場合は過度にこすらないでください。また金属ブラシの使用はおやめください。

(2) 製品表面に付着したシミや汚れは、早めに取り除いてください。長時間放置しますと頑固なシミや黒ズミ、汚れの原因となります。

＜雨ジミの除去＞使用環境によって雨・雪・散水により製品表面に部分的にシミが残ることがあります。

- ①まず、(1)通常のお手入れの方法で本製品施工面全体に渡り、表面のゴミ・ホコリ・汚れをとります。
- ②次に散水ホースなどを用い、本製品施工面全体に渡り、表面が完全に濡れるように十分に散水します。
- ③散水終了後、自然乾燥しますとシミを目立ちにくくすることができます。製品表面に水が部分的に残っている場合は最後に必ずから拭きをしてください。

＜上記で取れない頑固なシミや黒ズミ、汚れ＞次亜塩素酸系漂白剤(推奨漂白剤:キッチンブリーチ、カビキラー)を用いて取り除いてください。

- ①製品表面のゴミ・ホコリ・汚れを取り除いた後、散水などで水洗いし、製品表面を濡らした状態にします。
- ②濡れた状態で汚れを落としたい部分を中心に、周囲に上記漂白剤を塗布し、5分間放置してください。漂白剤は霧吹きなどを使用すると全体にまんべんなく塗布出来ます。その際、漂白剤を吸引しないようにご注意ください。(漂白剤の使用にあたっては漂白剤の「使用上のご注意」をよくお読みください。)
- ③5分経過後、散水しながらサンディング方向に沿ってブラシやスポンジで軽くこすりながら洗い落とします。
- ④最後に製品表面や床面などに漂白剤が残らないよう、しっかり水で洗い流し、流し終わったら製品表面に水が残らないよう必ずから拭きしてください。

※ご注意ください

- ・汚れを取るために次亜塩素酸系漂白剤を部分的に使用しますと、その部分の色がほかの部分と違って見える場合があります。
- よって上記①～④の漂白剤によるメンテナンスを本製品施工面全体に渡って行っていただくことをお勧めします。

(3) 製品表面についた傷について

- 使用しているうちに製品表面に傷がつくことがあります。市販のサンドペーパー(#60番)で表面を長手方向の筋目に合わせ、傷が生じた部分を周囲と全体的にぼかす感じでこするときれいに補修できます。市販のペーパーホルダー(サンドペーパーを取付ける補助器具)を使うと便利です。

※ご注意ください

- ・#60番以外のサンドペーパーや金属ブラシで製品表面をこすることはおやめください。また、表面を過度にこすらないでください。意匠性が損なわれたり、表面意匠層が損傷し、変色を生じる恐れがあります。
- ・部分的に傷の補修を行った場合、周囲の外観と違って見えることがあります。“周囲を含め全体的にぼかす感じでこする”ことがポイントです。